

如法経塚によはふきやうづか

〔男山の西にあり。桓武帝くわんむ王城鎮護として西方に経王を収らる、此所を南岩蔵みなみいはくらといふ〕心天橋ところてんぼし〔志水の南

天神森てんじんのもりへ行く道にあり。夏の頃五月雨夕立に河水橋に溢るゆる此名あり、土人の口称なり〕美濃山みのやま〔志水の巽しみづにあり。

後鳥羽院ごとうばのゐんの愛妃あいのつぼね美濃局みのつぼね此所にすめり、待宵小侍まつよひのこしじゆう従は此人の妹なり〕